


表現者として自身の根拠を検証し続けた写真家たち

大辻清司・高梨豊 — 写真の「実験室」と「方法論」—



大辻清司の「実験室」と高梨豊の「方法論」

2017年 9月13日[水]—10月12日[木]

休館日／日曜・祝日および9月20日[水]
※9月18日[月]・10月9日[月]は開館

開館時間／10:00～16:30(入館16:00まで)

入館無料

主催／東京造形大学附属美術館
協力／東京造形大学附属図書館

東京造形大学附属美術館
〒152-0892 東京都八王子市宇津貫町1556(東京造形大学構内)
TEL:042-637-8131 URL:<http://www.zokei.ac.jp/exroom/>

 **東京造形大学**
Tokyo Zokei University

【概要】

1966年に開学した東京造形大学の写真専攻(1971-80年は映像専攻)の教育で草創期から中心的な役割を果たしてきた大辻清司と高梨豊は、日本の写真史においても重要な仕事を残しています。本展はその仕事を現在の視点から改めて考察すると同時に、昨年創立50周年を迎えた東京造形大学の写真教育を写真史的な視野において確認するものです。

戦前期からのアヴァンギャルド芸術を継承する大辻の「実験室」と、1960年代という“異議申し立て”の時代に出発した高梨の「方法論」は、異なったアプローチではありますが、その作品は多様性によって特徴づけられています。本展では、多様な表現を超えた場所に現われる写真作家としての一貫した姿勢を数々の作品を通して提示します。

【主な出展作品】

大辻の1950年代の《陳列窓》《無言歌》や1970年代の《日が暮れる》《むかしの家》、1955年に制作された実験映画《キネカリグラフ》、高梨の1960年代の《東京人》、70年代の《都市へ》、80年代の《都の貌》、90年代の《地名論》、2000年代の《WINDSCAPE》といった日本の都市や風景を問い直す作品を展示します。

日時 | 2017年9月13日(水) — 10月12日(木) 10:00～16:30 (入館16:00まで)

休館日 | 日曜・祝日および9月20日(水) ※9月18日・10月9日は開館

場所 | 東京造形大学附属美術館 (東京都八王子市宇津貫町1556・東京造形大学構内)

交通 | JR横浜線「相原駅」より無料スクールバス5分・徒歩15分

主催 | 東京造形大学附属美術館

協力 | 東京造形大学附属図書館

【リリース内容に関するお問い合わせ先】

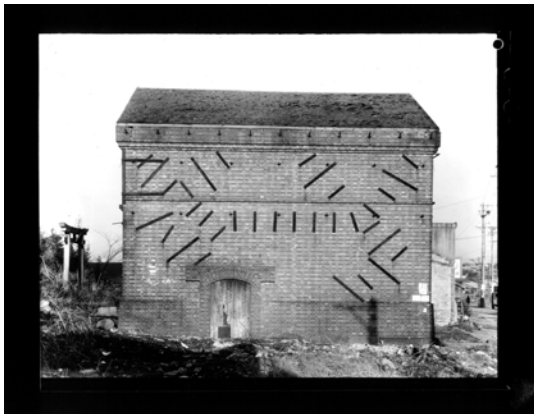
東京造形大学 総合企画室 TEL:042-637-8755 e-mail: kikaku@zokei.ac.jp

関連イベント 《参加費無料・事前申し込み不要》

- ・高梨豊 特別講義「“写真作家”とは何か？」
 日 時：2017年10月3日（火）16：40-18：10
 会 場：東京造形大学4号館桑沢記念ホール2階4-B教室
 講 師：高梨豊（写真家）
 聞き手：タカザワケンジ（写真評論家・ライター・東京造形大学非常勤講師）

- ・シンポジウム「継承と展開 ―写真について／写真を介して―」
 日 時：2017年9月25日（月）17:00-19:00
 会 場：東京造形大学12号館2階201教室
 パネリスト：潮田登久子（写真家）
 鈴木秀ヲ（写真家・東京造形大学非常勤講師）
 小平雅尋（写真家・東京造形大学非常勤講師）
 門田紘佳（写真家）
 モデレーター：中里和人（東京造形大学教授）
 藤井匡（東京造形大学准教授）

- ・ギャラリートーク
 第1回9月13日（水）17:30-18:10
 第2回9月26日（火）13:30-14:10
 担 当：藤井匡（東京造形大学准教授）、附属美術館学芸員

主な出展作品


左：大辻清司《「大辻清司ポートフォリオ」より 焼け残りの蔵 中野坂上》1940年代 東京造形大学附属図書館蔵

右：高梨豊《初國 島根県簸川郡大社町 出雲大社 1985年1月》1985年 東京造形大学附属美術館蔵



左：大辻清司《「大辻清司ポートフォリオ」より 瀧口修造夫妻》1975年 東京造形大学附属図書館蔵

右：高梨豊《SOMETHIN' ELSE》1960年頃 東京造形大学附属美術館蔵

【リリース内容に関するお問い合わせ先】

 東京造形大学 総合企画室 TEL：042-637-8755 e-mail：kikaku@zokei.ac.jp